

寺報 善巧

発行
〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善巧寺
☎宇奈月(07656)(5)-0055

寺
ごよみ

四月

一日 お講 当番 下村地区
◇法統継承式 新しい時代の宗門をめざして、本願寺では、いまの二門主が三月末日で引退され、この日、新門さまに法統が継承されます。

つまり、この日は宗門にとつ



法統をつがれた
大谷光真ご門主

ては記念すべき「お代がわり」の日となるわけで、わたしたち門信徒一同は心からのお祝いを申し上げると同時に、正しい道を聞きひらき、まことのみのりをひろめてゆく決意を新たにしようではありませんか。

八日 本山灌仏会（花まつり）
十六日 お講 当番 栗虫地区



朝に礼拝
夕べに感謝
昼は教えに
はげまされ

（雪の浦山善巧寺、三月一日のお講の日）

初参式

勤行・初参章拝読
法話・記念品贈呈

五月一日
午後十二時半

こどもが生まれたことをよろこび、お寺に初めてお参りして受ける式です。百日目誕生日までのお子様から小学校入学までの方は、ぜひどうぞ。くわしくは二、六ページにあります。

昨年十月末から、本年三月八日迄、善巧寺御門徒五百戸余りを、廻らせて頂きました。雨の日、風の日、吹雪の日と、兎に角、老体の身に拘らず、支障なく勤めさせて貰えた事に感謝して居ります。殊に、この度は、三法要懇志受納の初年度に当り、御無理な御願いに終始したにかかわらず、御協力を賜わり、御懇志を十二分に生かす可く粉骨碎身の覚悟で御座います。何分にも、善巧寺の御門徒は地域的にも、朝日町、入善町、宇奈月町、黒部市、魚津市、更には、富山市、高岡市、遠くは、東京都近辺に迄広がって居り、各戸の職業も、サラリーマン、農業、商業、教師、土建関係、公務員等々と、各範囲にわたって居り、夫々に、家庭の事情のある中を、善巧寺明教院の御法要、親らん聖人の御法要を、門徒の総意により、有意義に勤修し度いと、希望には共通したものである事を、しみじみ感じさせて頂きました。

報恩講廻りを終えて

四十代初期の照行寺、三十代初期の法輪寺と、若い世代が、住職をバックアップして、此処五年後を三法要のために、尽力の覚悟をしている姿には、心暖まるものがあります。

今後の詳細の計画は、逐次の理事会によって、固められて行く事と思います。念には念をいれるという言葉もありま

す。法要の勤修には、法務だけにとどまらず、本堂内部の莊嚴、境内の整備、教化の拡充、改築、補強、その他、各種の構想の実現に努めねばならず、その為には、御門徒の各層の、夫々の、アイディアの持寄りが是非、必要と思われま

す。老若を問わず、男女を問わず、何時でも、御来寺を願って、遠慮のない御意見を賜わることを期待して居ります。

今後五年間、色々と御迷惑をかけることが、多々あると存じます。併し、最終的には、皆様方と共に、法の悦びに、歓喜出来る日を、期待出来ると信じています。よろしく願ひ上げます。

合掌

住職 雪山俊之

寺とはいったい何だろうか？

ある青年の疑問と感動

お寺とはいったい何だろうか？小さいとき、かくれんぼで薄暗い本堂にはいつたことがあるだけで、近頃まるではいつたことがない。年寄りは何をおいてもいそいそと出かけてゆくが、いつたい寺にはどんな魅力があるのだろうか？……これは門徒のある青年が持った小さな疑問です。そして、その青年は――

はありません。

御正忌報恩講のつとめられていた一月十五日のことです。称えたお念仏が白い息となり、それが凍ってコロリと畳に落ちるのではないかと思うほど、寒い寒い日でありました。朝のお講づとめが終わって、おときの接待があり、それがすんで、午後のお速夜のおつとめがはじまると――

ガリりと御堂の戸があいて、おそるおそる、四人の青年がはいってきました。サテ、どこにすわるか……そこはシャバとはさかさまで「あんたここへこられい」と、お年寄りが席をゆずります。

と、お年寄りが席をゆずります。小さな火ばちの前に、小さくなつてすわった青年は、まず（しまった）と思ったそうです。とにかく想像を絶する寒さで、床下から扇風機でも当てているのかと思っ

たそうです。それからいへんだったのでしょう。（オーバーでも着込んでくるんだ）と思ったのもムリ

（ホー、〇〇地区門徒 一金参 千円……こっちは五千円……こっちは……）

と見ているうちに、フト、ゆうべの自分のことを思い出した。

（オレはゆうべ、会社が終わってから、パチンコへ行ったな。あのとき負けたのが、そっぴだ、あの紙一枚分……それからちよつと飲み

に……うーんあつちの紙三枚分以上か……かし……）

しかしです。ゆうべの行動はだれ一人としてほめてくれるものはいない。どこか思い出したら自分でもないやになることばかりです。

その時、青年は考えました。お金も使いようなんだなあ。そして決心しました。

（よし、あしたから、ムダ使いしそうになったら、あの貼り紙を思い出そう）

お経が終わると今度はお説教です。「親鸞聖人の開かれたお念仏の道は、わたしたち一人一人が心豊かに生き、そして心豊かに死んでゆける……そんな道なのであります」

青年にとっては、ずいぶん長い時間でありました。しかしそのお

（こんな寒い日に、うちにいれば、コタツにはいつてゆつくりできるのに、どうしてみんなこんなに冷たい御堂に、よろこんでこられるのか……）

考えてゆくうちに、寺の御堂には、凍りつくような冷気に負けることのない、何かあたたかいものが満ちあふれているのだということに、青年は気がついたのです。

お座が終わると、開口一番、「とにかく、あつっーい茶が飲みたい」

といったこの青年は、法輪寺さんのコタツにはいつて、はじめての体験と感動を以上のように話してくれました。そして帰りぎわ、

「来年の一月十五日には、必ず来ます。その時はあのお年寄りのために、座ぶとんをかついできますちゃ」といつてくれました。

お寺とはいったい何だろうか？その答えを自分で出したこの青年にわたしたちは感動せずにはおれません。ともするとお寺とは無用の長物、ただの大きな建て物と思いがちなわたしたちですが、寺はそんなものではありません。門信徒の方々の良い心の結晶、そしてわたしたちが、いかに生きるか、いかに死すべきかを問う、心の道



説教にひとつひとつうなずき、お念仏するお年寄りの姿に、彼はなにかいいような感動を覚え

寺ごよみ

五月

一日 お講 当番 音沢地区
◇初参式 この行事は善巧寺では始めて行われるものですが、ほとけのことも育てようーをモットーに、ことしから毎年のお楽しみ行事にしてゆきたいと思っています。昨年調べたところでは、この日ぐらいいに、門徒の方のチューリップ畑が満開になります。球根を太らせるために花はつんでしまふのですが、これをたくさんいただいてきて寺の御堂を「花御堂」に出来たら……と思っています。どうぞ、気軽にお遊びにいらして下さい。申し込みは寺に四月末日までに◇なお当日初参式終了後、三法要教化委員会を開きます。

十六日 お講 当番 音沢地区
おたのしみのウドお講、食堂には春の香りがいっぱいにひろがることでしょう。

場。なのです。

死んだ寺は拝観料を取る世の中ですが、わたしたち浄土真宗の寺は生きた寺です。生きた寺からはお念仏の音が響いてきます。そして、そのお念仏の音は、救いの親様である阿弥陀如来の呼び声であり、ほんとうのわたしを知る唯一の手だてなのです。あなたも、是非一度寺の御堂にお座わり下さい。四十代、五十代、六十代になつての初まりなんて……などという、つまらないテレはなしにして……

三法要

- ・宗祖 700回忌
- ・御誕生 800年
- ・明教院 200回忌

五年後めざして

意欲あふれる審議



この日の臨時総代会は、地区別過半数を大きく

く上回る二十五名の出席者で熱気あふれるなか、定刻の午後二時に開かれ、はじめに総代物故者柘

三法要を五年後にひかえての善巧寺春の臨時総代会は三月十六日開かれ、住職より提案の「三法要を五十七年十一月に執行する」ことを決議。これをめざしての「三法要事務所規程」ならびに「総務・教化・建設」の三委員会を設置し、さらに、今年度の募財計画も住職に協力して、前年度通りに実施することが決まりました。これによつて、昨年より「予告」の形でお伝えし、全門信徒の方々に御協力をあおいでいた三法要の事業計画は、教化、建設両面とも、いよいよこの四月から本格的なスタートを切ることになり、ご法要をお迎えの気運は一段と高まるものとみられます。

善巧寺臨時総代会開く

3月16日
お講の日

協力願った募財の報告がありました。

報告によると、五十一年度の報恩講廻りでは、五三二軒の門徒を廻り、募財は六四六万八、五〇〇円にのびります。この中で、昨年夏の総代会で計上された一般寺費一五〇万円を一四六万八、五〇〇円に押さえると、五〇〇万円が五十二年度分の三法要関係予算に繰り入れられることになりました。これについては異議はなく、五〇〇万円を五十一年度分の繰り入れ金として、三法要予算に組み込むことになりました。

つづいて住職から「三法要事務所規程」(別項)の提案があり、五年後にお迎えする法要の事業計画は、教化関係を「護法」(おみのりをまもる)建設事業関係を「愛山」(寺の護持発展につとめる)という二本の柱で強力に推進してゆくことが強調されました。

この件に関しては「護法」を欠いた「愛山」はなく、「愛山」を欠いた「護法」もないということで活発な意見がかわされ、およそ一時間、慎重審議の結果全員一致で「三法要事務所」の設置、ならびに総務・教化・建設の三委員会を設けることを決めました。

親鸞聖人七百回大遠忌
御誕生八百年慶讃法要
明教院僧侶二百回忌事務所
規程

《目的》

第一条 この規程は、昭和五十二年十一月、浦山善巧寺にお迎えする親鸞聖人七百回大遠忌、親鸞聖人御誕生八百年慶讃並びに当善巧寺第十一世の学匠明教院僧侶二百回忌法要(以下三法要という)に当り、法要儀式の執行・教学・伝道教化の振興に必要な記念行事及び事業並びに営繕事業等を策定し、善巧寺門信徒の懇念を結集して、推進実動の態勢を整えることを目的とする。

《事務所・委員会》

第二条 前条の目的を完遂するに必要な諸般の業務を処理する為、善巧寺内に「三法要事務所」を設置し、同事務所に「総務委員会」「教化委員会」「建設委員会」を組織する。

第三条 三法要事務所は左の各号の事項を掌る。

一、法要儀式・教化伝道に関する一切の事項

二、募財計画と実施に関する事項

三、記念事業及び行事の策定と実施に関する事項

四、営繕事業に関する事項

五、予算及び決算に関する事項

六、本山宗務機関との連絡、その他必要な一切の事項

《三法要事務所の役員》

第四条 同事務所に左の役員を置く。

一、理事長 善巧寺住職 二、

副理事長 四人 三、理事 善巧寺総代 四、監事 会計監査(理事会)

第五条 理事会は前条の役員をもつて組織し、理事長が招集し、総務・教化・建設の三委員会より答申のあつた事項について審議する。

《総務委員会》

第六条 同委員会は法要全般の運営について理事長を扶け、理事長の諮問に應ずる。

《教化委員会》

第七条 同委員会は「護法」を旨とし、三法要をお迎えするに当つての門信徒への伝道教化に關して理事長を扶け、理事長の諮問に應ずる。

《建設委員会》

第八条 同委員会は「愛山」を旨とし、三法要をお迎えするに當つての建設事業一切に關して理事長を扶け、理事長の諮問に應ずる。

《三委員会の役員》

第九条 三委員会の役員は、委員長には副理事長が当り、委員には理事及び門信徒の有識者が當る。役員の任期は三法要終了をもつて満了とする。

《監事》

第十条 監事は理事長が理事の中から委嘱し、会計を監査して理事會に報告する。

第十一条 この会計期間は毎年四月一日に始まり、三月三十一日に終わる。

護法・愛山を柱に

三法要事務所スタート

幹部 役員

総務・野崎吉郎氏（愛本新） 教化・橋場啓次氏（富山市）
建設・船屋幸吉氏（生地） 監事・尾沢初雄氏（中新）

三月十六日の臨時総

代会で、三法要事務所

設置が決まったあと、

ただちに同事務所の理

事会が開かれ、

理事には総代全

員が当たること

とし、理事長に

は住職、副理事長には

野崎吉郎氏（総務担当）

橋場啓次氏（教化担当）

船屋幸吉氏（建設担当）

尾沢初雄氏（監事）が

選ばれ、三委員会の役

員も別項のように決ま

りました。

五十二年度予算を審議

このあと理事長（住職）から、

五十二年度の三法要特別予算の説

明が行われ、別表にあるように五

十一年度分の繰り入れ金五〇〇万

円と、五十二年度分の募財五五〇

万円、特別懇志四〇万円などを見

込んで、本年度の予算額は一千一

〇〇万円とすることになりました。

その使途については「護法」を旨

とした教化関係費が二〇万円、運

営・予備費等で八〇万円、残る一

千万円を、「愛山」を旨とした建設

費に充てられることになりました。

外陣の戸障子、物置の整備、視聴

覚伝道の設備が考えられます。

一方庫裡関係では、書院の改築、

門徒集会所の建設、離れ、廊下、

経蔵等の修築の問題が出ました。

これについては理事会では、かな

り具体的な意見がかわされました

が、東孤幸一、佐々木繁作、菊地

良造の三氏を中心とする

建設委員会に一任し

て、早急に調査検討し

ていただくことに決ま

りました。

また、教化関係では、

五十七年の法要をお迎

えするまでに、研修活

動をすすめる、門信徒会

運動を推進すること。

年中行事の検討や文書

伝道、さらには日曜学

事業関係費にあてることになって

います。

この建設事業については、当面

今度の雪害による屋根の修復。そ

れに関連した基礎、壁

等の修理が考えられ、

つづいて内陣の御洗た

く、法物修理、金箔、

等が考えられます。

門徒集会所の建設、離れ、廊下、

経蔵等の修築の問題が出ました。

これについては理事会では、かな

り具体的な意見がかわされました

が、東孤幸一、佐々木繁作、菊地

良造の三氏を中心とする

建設委員会に一任し

て、早急に調査検討し

ていただくことに決ま

りました。

また、教化関係では、

五十七年の法要をお迎

えするまでに、研修活

動をすすめる、門信徒会

運動を推進すること。

年中行事の検討や文書

伝道、さらには日曜学

校、こども会、仏青、

等が考えられます。

門徒集会所の建設、離れ、廊下、

経蔵等の修築の問題が出ました。

これについては理事会では、かな

り具体的な意見がかわされました

が、東孤幸一、佐々木繁作、菊地

雪害修理を早急に

第一回建設委開く

三月二十七日午後一時より、第

一回目の三法要建設委員会が開か

れ、同委員会は、まず寺の建築物

関係の現状視察をしました。

その結果、本堂の屋根、ケタ、

基礎の一部、さらに土蔵前の柱等

仏婦、壮年会、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

くりにより、老人会等の組織づ

が雪害によりかなりのいたみをみ

せており、第一次の工事はこれの

修理からはじめるべきであるとい

う全員一致の結論に達しました。

この件に関しては四月六日に、

門信徒の中の建設関係者に集まっ

ていただいて、早急に補強工事を

はじめることにしていますので、

有志の方は是非四月六日午後一時

に寺にお集まり下さい。

三法要事務所役員名簿

（理事会）

理事長

副理事長

理事

監事

（総務委員会）

委員長

副委員長

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

（教化委員会）

委員長

副委員長

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

委員

※尚、三月末現在、下村、舟見
地区の総代が欠員となっており、
後任の選出をいそいでおります。
決まり次第、理事会、各委員会の
役員に加わっていただくことにし
ています。

春の念仏奉仕団

☆発車、オーライ!!

お待たせしました。このバスは春の念仏奉仕団、年に一度の本山まいり、総勢約四十名の地鉄観光バスでゴザイマース。途中とまりますのは彦根城、大谷本廟、ご本山、宗祖御誕生の地日野の里、そしておまけは伊勢・志摩観光地。

三泊四日のバス旅行、どうぞごゆるりとお楽しみ下さいませ。



3月20日
～ 23日

☆明教院様におあいさつ

大谷本廟・勸学谷の真ん中に、ドッカとすわった明教院。本山が誇る屈指の学匠。わたしたちは、このお墓に花をそなえ、五年後の二百回忌の法要をりっぱにつとめさせていただきますーと、お誓いしました。



☆ご門主様 ありがとう



この日はちょうど彼岸の中。前門主勝如上人最後のご出座とあって、本山御堂は超満員。厳肅かつ荘厳なおつとめに参拝団は感激もひとしお。お念仏の高まる中に「ご門主様、長い間のお導き、本当にありがとうございました」の声もあちこちから。

☆ご影堂廊下をサツサツサ

お念仏をよるこぶわたしたち。せめて奉仕のまねごとでもーと、本堂、ご影堂の拭きそうじ。そして、境内まわりの草むしり。

「こんどは、善巧寺さんの念仏奉仕団をつくって、お講の前にまいますつちゃ」と、ひと汗流した音沢のおばちゃん。アリガトウ!



☆アラ エカッタヤ

本山二泊、伊勢・志摩一泊。旅の疲れもあればこそ。おみやげかたいで、いざ、わが家へ。そしてひとこと「アラ エカッタヤ」



一月二十一日 終日雪

本日より、地元浦山の報恩講廻り。昨年十二月二十六日より連日の降雪にて、積雪一メートルを上廻っている。本日は、浦山六区十二戸を廻る予定。モンペ、ゴム長、えり巻、帽子と、重装具で、雪道を歩む。御門徒の中で、病人の多いのに、心痛。突然の痛みで、黒部市民病院に入院して、胆石を取り出す手術をしたという話。脳血栓で、半身不随の病床にある老人の話。毎朝、めまいと頭痛で苦しんでいるお母さんの話。どうして、こんなに沢山の病人がいるのかと、腹立たしくなる。

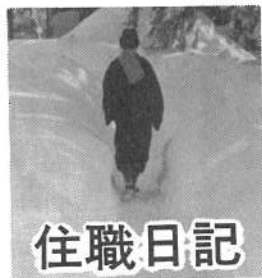
わが家でも、孫達の中で、風邪引きが次々に起り、夜中に、咳の音が絶えない。

一月二十二日 雪

浦山、中町十戸。本堂屋根雪が、約一メートル積っている。何時、落ちるか心配だ。

先づ、玄関に入って、傘の雪を払う。帽子にも雪がたまっている。モンペを脱ぐ。仏間に入る。灯油ストーブを朝から灯して居る。鏡が曇るほど暖かい。御菓子とお茶。玄米茶が、本堂においし。

法輪寺が、御仏壇にお灯しの火をつける。私達四人、御正信偈をあげる。照行寺が、御文章箱を置く。私が、御詣りの御門徒の方に



住職日記

向きかえって、御説教をする。終って、四方山の話がはづむ。御懇志を頂く。このような手順で、一年一度の報恩講がつとまるのである。世間話も色々あって、面白いし、私のような世間知らずには、役に立つ話が多い。今日の、第一軒目の御門徒は、ハワイ帰りの、若夫婦の世帯。若いと言っても、四十代であろう。土建関係の招待か何かで、御夫婦で、ハワイ旅行を楽しんで来られた話。ワイキキの浜とか、一流のホテル宿泊とか、英語が話せないための失敗談とか、実に、面白い話を聞かせて頂く。第二軒目は、

閑電勤務のサラリーマンの御家庭。奥様が、此の頃、果実酒の製作に凝って、十幾種類のびんを並べて、苦心談を披露して下さい、うっかり飲み過ぎて、顔が真赤になりました。帰宅午後五時。

一月二十三日 時々雪

明日(あさび)の御門徒の上法事。終って浦山報恩講九戸。屋根雪卸しで、大変である。大抵は、二度目らしい。善巧寺離れの雪卸しに、桁屋からわざわざ来て下さっている。門徒総代の家で、おひるを御馳走になる。納豆汁が、最高に美味。

夜は、早く就寝。

寒 雀 えさを求めて 窓近く 会釈して行き交う小怪 雪五尺

寺

ごよみ

六月

六月といえば梅雨のシーズン。ジメジメ、ムシムシ...あまりいい気分にはなれません。ところで、そのお天気のこと、以前気象台の方にこんな話を聞いたことがあります。

それは「気象にはいい天気、悪い天気というのはいないんですよ」ということでした。梅雨のジメジメは家庭においてはイヤな天気といえるでしょうが、イネの発育には、あの雨はどうしても必要なのです。カンカン照りは気持ちがいいとふつうは思いますが、その干ばつで泣いている人もいます。ですからいい天気、悪い天気というときには、まずその先に「わたしにとって」ということばが必要だということです。ホントです。どうもわたしたち自分勝手が多すぎますね。

六月のお講は、一日が東孤・上野地区。十六日は音沢地区の当番です。

おつとめ勉強会

下立愛本ではじまる



これまでの客観的な見方から一転して、浄土真宗は「わたしの宗教」であるという自覚にもとづいた若い人たちの意欲的な姿勢には、心打たれるものがあり、各地区門信徒の注目をあつめています。

この会は、昨年暮の同地区三法要説明会の折に「これからは若いものが積極的に勉強してゆかねば」という声が出たのが縁となり、常会長の橋爪さんや清水さん、沢木さん、福沢さんらが中心となつて門徒の方々へ熱意ある呼びかけを重ねた結果スタートしたものです。一月二十九日、豪雪の中での発会式は、予想を大きく上回る出席率で世話方もびつくり。その後

二月に二回、三月も二回と、月に二回の勉強会を重ねましたが、仏事の簡単なお作法も身につく「お正信偈」も、本山ご影堂であげても十分に通用するほどの上達ぶり。そのうち寺のお講で発表会をやるうと意気込んでいます。

のびよ のびよ
ぐんぐん のびよ
わかめ のように
すつくりと
ほとけの こどもは
ひかりに そだつ

「ちかごろの若いものは寺にまいることを知らない」となげいておられる方があります。本山の参拝部長はそんな方に次のように問われます。

「あなたは毎日欠かさず仏だんにおまいりしてますか？ そして毎月、こどもや孫をつれてお寺参りをなさっていますか？」

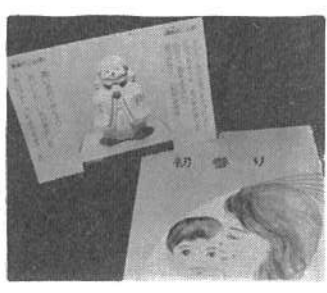
ハイ、と答えられなかったら、少しは反省してみましようということでしょう。まことのみのりを聞きひらく身にならせていただくには、やはりこどものときからの「お育て」逆にいえばしつけがなくてはなりません。

善巧寺では、そんなことから、仏のこどもを育てよう！と、五月一日、お講の日に「初参式」を行

また、この会の世話方は、他の地区でこのような勉強会をはじめるときに参考にと、毎回日誌をつけ、会の運営法の資料も用意しています。「うちでも」と思われる方にはいつでもご相談に応じます。」とのことでした。

います。西欧ではこの式をしないと名前がつかないというところもあるほどで、人生の第一歩を踏み出すにあたっての大事な行事です。当日はあさからお講のおつとめがあり、食事をいただいたあと、初参式を行います。動行、初参章の拝読、そし

花いっぱいの初まいり 5月1日



て法話のあと、赤ちゃんにはステキな初参りの小冊子、合掌人形、そして小学校前のお子さんには、人形とスタンド式の食前食後のことばなどをプレゼントします。

五月の第一日曜日、花いっぱいの寺の御堂に是非おまいり下さい。お問い合わせと申し込みは四月末日までに寺の事務所まで。

合 掌

五月、六月の青ものお講が待ち遠しい季節となりました。そろそろ田んぼで働き出された皆さん、お元気ですか？ 土のぬくもりはいかがですか？ 冷たい冬にあたためあったあの暖かい開法のようにこびをかみしめていらつしやいますか。

◇ 思い出しましよう。あのウドのことを。漢字で書くと「独活」となります。ひとり活き活きです。しかし、ウドは本当にひとり活き活きなのだろうかということを。ウドは大地自然のめぐみを一身にうけて、スクスクと育つのです。そして、わたしたちは...

◇ そうです。わたしたちも同じです。ひとり活き活きと生きてゆけるほど強くはありません。あらゆるもののおかげによって、わたしたちは生かされてゆくのです。それがわたしの本当の姿であり、それを教えて下さったのが如来様です。「おかげさまで生かされ、ありがとうと生き抜きましょう」と、おっしゃった前門様のおことばを、深く心にききながら、御恩報謝の日々をお送り下さい。



おひと口 合掌・礼拝

○両手を合わせて胸の中央にかかるくつけ、指をそろえて約四十五度上方にのぼし、念珠をかけて親ゆびでかるくおさえます。(写真上)

○肩、ひじをはずらず自然に、目は仏さまの方にむけ、そしてしずかに念仏し



○礼拝は、合掌したまま上体を約四十五度かたむけてお礼をし(写真下)上体をおこしてから合掌をときます。

じゆずをかけて、合掌するとき、そのときこそ、人の心がいちばん純粹になるときです。

